



TAKARAZUKA UNIV. 25th

2012年、宝塚大学は創立25周年を迎えます

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます

2012年4月



作：イラストレーションコース4年 引場早紀さん

＜宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問合せ＞

宝塚大学 東京 新宿キャンパス 広報室

担当：金澤、山本 TEL:03-3367-3411

＜ご掲載・写真データ等に関するお問合せ＞

宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 広報事務局 共同PR株式会社

担当：^{えがしら}江頭、^{たかはし}高橋 TEL:03-3571-5228

北京師範大学^{しゅかい}珠海分校と交流

北京師範大学珠海分校の学生 11 人と教員 2 人が 3 月下旬に来校し、中国と日本のコンテンツ産業の現状について相互理解を深めることを目的とした「第一回相互交流プログラム」を開催しました。

一行 13 人は、約 1 週間にわたって滞在。特別講義を受講する合い間に、東京国際アニメフェアやアニメーション制作会社を視察するなど精力的に日程をこなし、本学への理解も深まったようでした。月岡貞夫教授（アニメーションコース）の特別講義では、中国語に存在しない「大衆にうける」という意味での日本語の「うける」という言葉の解説、日本のアニメーションの潮流などについて話が及ぶと、参加した学生たちは熱心に耳を傾けていました。



月岡貞夫教授による特別講義の様子

北京師範大学珠海分校と本学は、昨年から川村順一学部長らが同分校を訪れるなど、提携を進めてきました。中国では日本のアニメやマンガなどのコンテンツや、人材育成に関する関心が高まっています。その一方、中国のコンテンツ産業の成長は世界的にも注目されています。こうした状況を踏まえ、今後とも両校では積極的な交流をはかることにしています。



特別講義 竹内一郎教授



特別講義 井上幸喜教授



交流懇親会の様子



講義に集中する北京師範大学珠海分校の学生たち

1.HOT TOPICS-②

「東京国際アニメフェア2012」に初出展

アニメーションコースの学生たちが中心となり、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催された「東京国際アニメフェア 2012」に初めてブース出展しました。ビジネスデー（3/22～23）、パブリックデー（3/24～25）の期間中、在校生の作品や2011年度の卒業制作作品の上映、東京メディア・コンテンツ学部の紹介を行い、訪れた見学者たちでにぎわいました。



今回の「東京国際アニメフェア 2012」は、東日本大震災の復興支援が大きなテーマでした。その一環として海外に向けて元気な日本をアピールするため海外からの出展を広く募ったこともあって、9カ国の在日大使館が参加して展示ブースを開きました。

タイトル：「カエル塔立」アニメーションコース卒業生

瀬之口拓磨さん（埼玉県立越生校出身）

安藤尚也さん（愛知県立大府高校出身）

伊藤正樹さん（東京都立光丘高校出身）

本学の出展ブースにも多くの在日大使館員や海外のアニメ関係者が訪れ、ブルガリア大使館からは、ブルガリアで行われるアニメフェスティバルへの作品応募の依頼がありました。また、チュニジア大使館の出展ブースでは、参事官らと渡邊哲意准教授が意見交換を行い、交流を深めました。



チュニジア共和国大使館と意見交換



出展ブースの様子

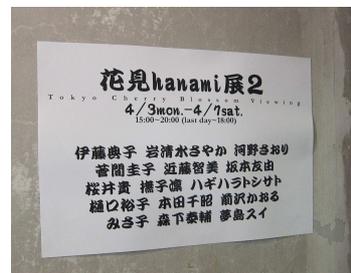
1.HOT TOPICS—③

如月さん、前沢さんが出品

イラストレーションコース 4 年の如月友里佳（ペンネーム：夢島スイ）さん（神奈川県立白山高校出身）と卒業生の前沢かおるさん（共栄学園高校出身）が、アートラボ・トーキョー（東京都中央区日本橋）で開催された「花見展 2」（4/3～4/7）に参加し、桜にちなんだ作品をそれぞれ出品しました。アートラボ・トーキョー



アートラボ・トーキョーからの桜



「花見 hanami 展 2」

一前の桜並木通りは花見の名所となっており、ギャラリーをお花見会場に見立てるという粋な演出に、多くの鑑賞者が作品と桜の両方に見入っていました。

今回、同展に参加した 15 人のうち、如月さんと前沢さんを除く 13 人はプロの画家で、2 人はプロに混じっての参加になりました。「花見展 2」を企画した森下泰輔氏は、2 人の作品について「短期間でさらに成長している。今後がますます楽しみです」と話していました。

如月友里佳さん

森下さんが新宿大ガード下に設置してある私の壁画に興味を持っていただいたことで、今回の展覧会への出品につながりました。春休みの期間を利用して 3 つの作品を制作したのですが、全ての作品に対して自分で値段を設定するなど、プロの意識を知る上でとても貴重な経験となりました。



如月友里佳「春と予感」607×727mm



前沢かおる「Angelic clindoeil kiss you」

607×727mm

Art Lab TOKYO アートラボ・トーキョー HP : <http://art-lab.jp/>

東京都中央区日本橋兜町 16-1 第 11 大協ビル 3F

1.HOT TOPICS－④

【社会連携】

「Rio & Syuga スペシャルライブ」に協力



新宿区役所前で行われたスペシャルライブ

新宿区役所本庁舎（新宿区歌舞伎町）玄関前で、歌舞伎町ルネッサンス ライブミュージックプロムナード特別企画「R i o & S y u g a スペシャルライブ」（主催：歌舞伎町タウン・マネージメント、後援：新宿区）がこのほど開催されました。ライブは渡邊 哲意 准教授が企画し、学生の坂口茜さん（イラスト4年、神奈川県立白山高校出身）、中野勝利さん（イラスト3年、城西大学附属城西高校出身）が協力し、ライブの進行などをサポートしました。

スペシャルライブは、歌舞伎町を誰もが安心して楽しめるまちに再生する「歌舞伎町ルネッサンス」の一環として開催されました。「R i o & S y u g a」は、高い演奏力で定評のある学生ピアニスト・R i oさんと少年バイオリニスト・林周雅さんのコンビで、昨年12月に開催した「歌舞伎町クリスマスコンサート」では、イラストコースの学生たちが描いたライブペイント（バンド演奏中に即興で絵を描く）と共に演奏を行って好評を博しました。

本学は「歌舞伎町広報大使」に就任しており、新宿区で行われる音楽やアートイベントに継続して参加、協力しています。



1.HOT TOPICS－⑤

【社会連携】

震災復興支援イベント 第5回歌舞伎町農山村ふれあい市場に参加

新宿区の恒例行事となった「歌舞伎町農山村ふれあい市場」が3月末に大久保公園で開かれました。新宿キャンパスでは有志の学生たちによるチャリティーでの似顔絵描きや、ライブペインティングを行い、来場者から喜ばれました。また、「女川カレー」の販売を手伝う活動も行いました。

「女川カレー」は、鎌倉市のインド食材販売会社で働くメタ・バラツツさんが宮城県女川町での炊き出しで作られ、それが名称の由来となりました。今では雇用創出や町興しを目指し、様々なイベントでこのカレー販売が行なわれています。

ふれあい市場は、歌舞伎町を誰もが安心して楽しめるまちに再生する取り組み「歌舞伎町ルネッサンス」の一環として、新宿区民と農山村との交流、地域振興、まちのにぎわいづくりを目的に2010年7月から定期的に行われているイベントです。5回目を迎えた今回は、福島、宮城、岩手など震災の被災地や原発事故によって風評被害を受けている地域からの出店のほか、新宿消防署・新宿区耐震補強推進協議会の協力による耐震相談など約30の屋台やブースが出店。また、ジャズライブ、K-POPライブなども行われ、多くの来場者がイベントを楽しみました。

本学は2011年9月に「歌舞伎町タウン・マネージメント（TMO）広報大使」に就任しました。今後ともTMOと協力し、歌舞伎町の魅力を広く発信していきます。



宝塚大学の似顔絵ブース



来場者の似顔絵を描く学生たち



学生が描いた似顔絵



女川カレー販売の様子

1.HOT TOPICS—⑥

河田さんらがグループ展

ゲームコースの河田佳美さん（3年、浦和学院高校出身）らが主催するグループ展「Unknown EGG #2」が、渋谷区神宮前のギャラリー「DESIGN FESTA GALLERY EAST」で行われました。

「Unknown EGG」は美大生、芸大生が学外で気軽に活動できる場を提供したいという思いから、ゲームコースの河田さんらが立ち上げた企画展です。2011年8月に初めて開催したところ、「次は参加したい」との声が多く出たため、2012年から1年に2回の定期開催をすることになりました。

2012年1回目となる今回は、本学のほか日本大学や東京工芸大学、武蔵野美術大学、デジタルハリウッド大学、東京工科大学から、クリエイターを目指す学生たち20人が参加し、それぞれの個性を存分に表現した作品を展示しました。

次回の開催は、今年の8月を予定しています。



河田佳美さん

日本を代表するような美大・芸大では、発表する場や機会は大学側で企画されることが多々ありますが、その他の私立美大・専門学校や独学で絵の勉強をしている人にとっては、そういう機会が少ないように感じます。「同じ境遇・同じ志を持っている人が表舞台に出ないでどうする」という思いから、この企画を立ち上げました。また、現在のクリエイティブな社会では横の繋がりが重要になってくると思います。「Unknown EGG」が、同じ道を歩む友人を多く作れるキッカケになれば幸いです。



会場には、総勢20人の作家の作品が展示されました

1.HOT TOPICS—⑦

竹内教授、朝野教授が新刊を上梓

マンガコースの竹内一郎教授と、東京メディア・コンテンツ学部、造形芸術学部（宝塚）、看護学部（大阪）で「リスク・マネジメント入門」や「メディア社会学」などの授業を担当している朝野富三教授が新刊を上梓しました。

■ 就職活動を勝ち抜く「見た目力」 竹内一郎著（アスペクト）

[内容]

就職活動でも大切になる“見た目”。面接を成功させる早道は、言葉を使わないコミュニケーションで好感度をアップさせることです。「その企業で働きたい」という思いは、言葉以外の“見た目”でも伝えられます。面接試験を勝ち抜くためのしぐさ、笑顔、表情のつくり方、声の出し方、あらゆる方法を紹介した一冊です。



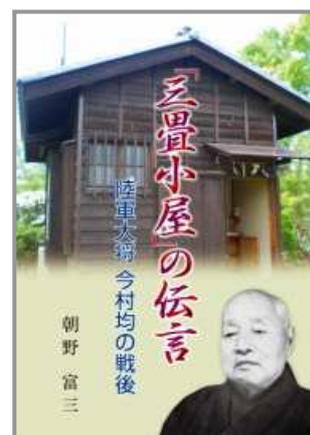
<竹内一郎教授 プロフィール>

1956年福岡県久留米市生まれ。横浜国立大学卒。九州大学博士／比較社会文化。筆名「さいふうめい」で発表した『戯曲・星に願いを』で文化庁・舞台芸術創作奨励賞佳作、原案を担当した『哲也 雀聖と呼ばれた男』で講談社漫画賞を受賞。その他、『アストライアの天秤』（講談社）、『少年無宿シンクロウ』（講談社）、『中学生日記』（NHK 出版）等の漫画原作を担当。『手塚治虫＝ストーリーマンガの起源』（講談社）でサントリー学芸賞受賞。「人は見た目が9割」（新潮新書）、「ツキの波」（新潮新書）、「その癖、嫌われます」（幻冬舎新書）など、著書多数。

■ 「三畳小屋」の伝言 —陸軍大将 今村均の戦後— 朝野富三著（新風書房）

[内容（著者より）]

南方のBC級裁判では、原住民の指摘が動かぬ証言となり、多くの兵が処刑された。「兵の行為の責任は上官にあり。私を戦犯にしろ」と叫んだのが陸軍大将・今村均であった。彼は自らラバウル戦犯収容所へ赴く。無罪判決を得るも服役を要求、昭和28年までマヌス島の刑務所で過ごし29年巣鴨を出所する。しかし自宅庭に三畳小屋を建て、43年、82歳で没するまで過ごす。彼はそこで何をしていたか。904本の記事を50数冊のスクラップに張り、アンダーラインを引いている。筆者はそれを詳細に分類し、何を伝えようとしたのかを検証し、学生たちに教えている。国内関係では教育が一番多く、軍事、社会と続いている。今村が三畳小屋から何を伝えようとしたのか、多くの人たちに知っていただきたい。



<朝野富三教授 プロフィール>

1947年神奈川県横須賀市生まれ。海上自衛隊生徒課程（江田島・四年制）修了。早稲田大学第一文学部卒業。毎日新聞社に入社し、大阪本社社会部長、同編集局長などを経て2005年から宝塚大学（旧宝塚造形芸術大学）教授。著書に「昭和史ドキュメント ゴー・ストップ事件」（三一書房）、「細菌戦部隊と自決した二人の医学者」、「奇病 流行性出血熱」（共著・新潮社）など。

1.HOT TOPICS—⑧

SDC ハートの活動冊子 渡邊准教授と学生がボランティア参加

震災と原発で神奈川県内に避難し転校を余儀なくされた中高生を対象に自立支援を行っている「SDC ハート」の活動冊子が完成しました。冊子には、中高生たちが震災時を振り返り、様々な胸中をつづった文章が寄稿されています。渡邊哲意准教授、坂口茜さん（イラストレーションコース 4年、神奈川県立白山高校出身）が中心となり冊子を制作しました。

「SDC ハート」には、渡邊 准教授がアドバイザーとして参加しており、渡邊准教授の呼びかけにより、昨年、湘南で開催されたチャリティーライブに坂口茜さんと今川柚子さん（イラスト 4年、神奈川県立岡津高校出身）、震災の被災者でもある宮城県出身の小野寺真央さん（イラスト 2年、気仙沼高校出身）、岩手県出身の紺野祐花さん（アニメ 4年、岩手県立大船渡高校）らが、高校生スタッフのサポート役としてイベントに参加しました。



完成した冊子

<SDC ハート 主な活動>

【コミュニティーサポート事業】

集う・仲間作り・地域交流・企画実行支援（復興支援イベント・被災者応援企画提案）

【学習支援】

【相談事業（各専門家と連携）】

進路相談・メンタル相談・生活相談

【情報収集発信事業】

ホームページ・支援情報のお知らせ・情報交換

【問題を抱える子どもについて支援ネットワーク事業】

各関係機関や専門家、各団体との連携



昨年の復興支援ライブボランティアのメンバー

<SDC ハート事務局>

〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北 2-1-58 さんこうビル 2F

電話（FAX） 0467-82-0678 （10：00～18：00）

HP: <http://sdc-heart.com/>



2.授業紹介

芸術教養Ⅱ(茶道)〔受講学年:メディア・コンテンツ学科 1年(選択課目)担当教員:岩田明子講師〕

「芸術教養Ⅱ(茶道)」は、今年度から開設された授業です。この授業では、“お茶をいただき合う”という主客の交流を通して、人との関わり大切さや自然・美に対する心の養成、譲り合いや思いやる心、感謝し仕えあう心の習得、人や自然に対しての感性の切磋琢磨などを学生が身に付けることを目標にしています。そして、受講生一人ひとりが「文化とは何か」という本質を、自らの体験を通じて考える契機となることを目指しています。

授業は東京新宿キャンパス 10 階の茶室「心田庵」で行われます。「心田庵」は、千 玄室 氏 (利休居士第 15 代、前家元) の設計・監修による茶室で、授業以外にも茶道教室の稽古場として利用されています。



授業を担当する岩田講師

初回の授業では、「裏千家」の茶道について学びました。裏千家の茶道では、修道体系を“道・学・実”(=「精神的な修養」「茶道に関するあらゆる学問」「お点前を行うこと」)の三要素に分け、点前を通じて道・学を習得する三位一体の修行が茶道であることを、岩田講師が紹介しました。また、茶道では、「客のもてなし方が身につく」「立ち振る舞いがきれいになる」「日本の昔からの儀礼や慣習を知ることができる」「美に対する感性が磨かれる」「心身を含めた健康への効果」「日本文化を学ぶことでの国際化社会への対応能力が上昇する」「平和共存と互いを尊重し合う考えが醸成される」といった成果が望めるという説明がありました。

続いて、学生たちは場所を心田庵へ移し、座り方、立ち方、座った状態でのお辞儀、立った状態でのお辞儀などについて実技を交えながら学びました。茶道特有のすり足気味の歩き方を学ぶ際には、岩田講師が「このように歩くのは、近くに人が座っており、その近くをパタパタと歩くことが失礼にあたるからです」と、作法とその動きの理由を解説していました。



新宿キャンパス 10 階にある茶室「心田庵」の室内



学生たちは初めて習う「茶」の席での襖の開閉に挑戦

3.教員紹介

川村順一学部長

若いクリエイターにどのような機会を与えられるか

— 新年度を迎えて

ここ3年、コンテンツ産業の大きな変化が特に顕著に起きています。マンガはマンガ、アニメはアニメといった専門のプラットフォームの境目はなくなりつつあります。この変化に、学生だけでなく大学も対応していかなければなりません。今年度の学部の特長の一つとして研究室制度に力を入れます。学生が在学中にコースの垣根を超えて、興味ある分野や学外での様々なプロジェクトに参加できるよう、枠組みを整えていきます。



川村順一学部長

— 様々なものに触れて発見を

今の学生たちは、スマートフォンひとつをとっても、目の前に情報やコンテンツがあふれています。便利な分、“自らが取りに行く”姿勢が失われがちです。ものづくりは知識だけではうまくいかないもので、身体で感じて習得するなどの刺激や体験が必要です。そのきっかけづくりのひとつとして、今年度から大学にある心田庵（茶室）を利用し、芸術教養の授業で茶道をカリキュラムに加えました。古い伝統芸術の価値を知った上で、新しいコンテンツを生み出すために、素材や題材を意識できるようになってほしいと思います。

4月は、東京国際アニメフェアの出展や北京師範大学珠海分校との相互交流を企画するなど、異なる国の文化に触れる機会がたくさんありました。他の国の人々と話をし、海外の作品に触れることで自分の刺激となります。また、対比することで自分のコンテンツづくりの発見につながることもあります。

— 新たなものづくりの姿勢

Facebookのエンジニアリングディレクターが、「今までの広告は『ボウリング』だった。これからの広告は『ピンボール』とマーケティングのイベントで話をしていました。送り手が球を投げて多くのピンを倒すのではなく、球は落ちてしまうかもしれませんが、弾かれながらバウンドして、ソーシャルに広がっていくというイメージです。コンテンツ作りも同じだと思います。作家の独自性を生かした作品も当然あるべきだと思いますが、ソーシャルに上手く対応した作品づくりによって、自分が気づかなかったことを多方面から評価されることがあります。我々の役割の一つは、学生たちが在学中に各自のコンテンツ作りの発想につながり、且つ世の中の様々な動きを感じ取れる場を数多く提供することだと思います。

<川村順一学部長 プロフィール>

早稲田大学法学部卒業。編集者、美術家、写真家、空間プロデューサーとして活躍後、1988年、株式会社ナムコに入社し、『鉄拳』『ソウルエッジ』などのゲームをプロデュース。2003年からは株式会社デジタルスケープでゲームや人材育成に取り組む。『ソウルエッジ』オープニングムービーは、1997年マルチメディアグランプリ・優秀人物賞、1998年メディア芸術祭・大賞受賞。ゲームコースでは、ゲーム産業論、ゲームビジネス研究、企画発想法とプレゼンテーションなどを担当。国際的CG展示イベント「ASIAGRAPH in TOKYO 2011」オブザーバー及びCGアートギャラリーのプロデューサー。「学生クリエイターズ・フェスタ in 新宿 2011」企画委員。

4.学生紹介

イラストレーションコース 4年

如月友里佳さん（神奈川県立白山高校出身）

一枚の絵をキャンバスに描くこと

— 自分が一番楽しいことを

昨年、新宿大ガードにウォールギャラリーとして壁画を1枚描きました。自分自身、このままでいいのかと色々と迷っていた時期だったのですが、この作品をきっかけとして「花見展2」（P.5参照）の出品につながり、とても嬉しかったです。大学入学後、本や小説に挿絵を描くイラストレーターになりたいと考えていました。しかし、ある出版社の方に私のポートフォリオ（作品集）を見ていただいた際に、「挿絵というよりも一枚の絵を見せていったほうが面白いのでは」と言われ、自分はイラストレーターに向いていないのではないかと悩みました。自分が一番楽しいことは何かと、改めて考えましたが、一枚の絵をキャンバスに描くことが一番好きだと気づきました。今後、やっていきたい方向性は見えてきた気がします。



如月友里佳さん
（ペンネーム：夢島スイ）

— 絵に込める想い

何かを表現するとき、昔から感じてきたことや傷ついてきたことも含め、それらが力になって作用している部分があります。例えば、私は両性的なキャラクターを描いたりするのですが、それは、性別の隔てなく皆の良いところだけを見ようとする私のポリシーを映し出しています。また絵を描くことが自分のメンタル面を支えていると感じます。悩みや苦しみを誰かに相談するのではなく、精神的に崩壊しないためのよろいとして絵を描き、それで自分をわかってあげることがあります。

自分がその絵を手放したくないと思った時は、自分の中で小さい革命みたいなものが起こっていて、納得できる作品であることが多いです。逆に、完成した作品に対してどこかで売ってもいいやという気持ちが生まれると、愛着が薄れてきます。

— 大学4年を迎えて

私は大学を選ぶときに、教授や講師の方たちで決めました。当時、新しくできた大学でしたが全く気にしませんでした。本当にこの大学が性に合っていて離れたくないですが、卒業年を迎えて、卒業制作をもう考え始めなければいけません。将来を考えると、個人としては、絵を描いていける環境に進んでいければと思いますが、就職も選択肢にあるのでまだこれから悩むと思います。最近、知り合いの画廊や作家の人たちに「自由に、好きに描けばいい」とよく言われます。私の発言に対して励ましているのかもしれませんが、これからはネガティブなことは言わないようにしようと思います。

<如月友里佳（ペンネーム：夢島スイ）さん>

神奈川県立白山高校出身。イラストレーションコース4年。

（主な出展）

「花見展2」作品展示。新宿小田急百貨店内「青い鳥原画展」、デザインフェスタ vol.34 グループ出展、「カワイイ☆アート展」最終選考パフォーマンス、ISETAN 立川店にて作品展示、新宿大ガード下壁画製作、新宿小田急百貨店内「e 顔エコバッグ展」（東北復興支援）など。

5.新入生紹介

マンガコース 1年

伊藤琴乃さん（東京都 朋優学院高校出身）

絵だけでなく物語を深く学びたい

— 大学を知った経緯

美術コースのある高校だったので、美術系大学の広告や、先生、先輩方からの情報で知りました。当初は専門学校も視野に入れていましたが、先生や両親からのアドバイスもあり、マンガやアニメなどを学べる大学を探していました。高校1年と3年の夏に、東京メディア・コンテンツ学部のオープンキャンパスに参加したことが決め手となりました。オープンキャンパスで松本 零士 教授や竹内 一郎 教授の話聞き、マンガへの情熱がある先生と一緒に勉強ができること、分からないことは何でも聞くことができる雰囲気を感じ、自分の夢に向かう一歩を踏み出しました。



大学生生活の抱負について語る伊藤さん

— 実際に大学に入って

高校の時よりも人が多くて少し不安でしたが、皆な親切で、今は新しい環境で様々なことを学べる期待の方が大きくなりました。特に、「マンガシナリオ」や「マンガ背景美術」の授業に興味があります。高校時代は多くの友人と学んだので、大学でも友人をたくさん作って授業を受けたいです。

入学が決まった後、両親や姉からたくさんの励ましの言葉をもらいました。私が小さい頃に姉がマンガ好きだったことから、マンガやアニメに興味を持ちました。姉が「マンガ家を目指してられるように頑張って」という言葉をかけてくれたので、姉の言葉を胸に勉強していきたいと思います。



新入生代表の挨拶をする伊藤さん（入学式から）

— マンガを通して伝えたいこと

将来の目標としては、マンガ家としてデビューしたいです。入学して間もないですが、マンガを通して誰かに伝えたいという初心を忘れずにいたいと思います。少女マンガに興味があるのですが、その中でも、“友情”や“家族”をテーマにした作品を書きたいと考えています。大切な人とはどういう存在なのか、その人のおかげで生きていける勇気や希望が生まれる、といったことを読者に伝えることができるようになりたいです。そのためにも、常日頃から、友達、家族を気遣う心をいつも大切に持っていたいと思います。

宝塚大学は創立 25 周年を迎えます

5 月 23 日に創立 25 周年を迎える宝塚大学は、今年度を大学のさらなる飛躍の年と捉え、『Turning Angle “反転角” —意思を持って反転する』をテーマに、さまざまな記念事業を展開します。

宝塚大学は 1987 年(昭和 62 年)、芸術大学としてスタートしました。「芸術と科学技術の融合」を掲げ、芸術に IT・マルチメディアを取り入れた教育を展開。先駆的な試みとして注目され、当時学んだ多くの卒業生が産業界で現在活躍中です。2007 年(平成 19 年)には東京メディア・コンテンツ学部を開設、2010 年(平成 22 年)にはさらに時代の要請に応えるべく看護学部を設置し、「芸術」と「看護」の 2 分野(3 学部)を有する大学へと進化を遂げました。

この両分野はともに、人間の心に働きかけることが原点です。人間の「生きる力」を支え、応援するための創造であり、行為であるという点で、本質的に同じです。本学では、「心に働きかける芸術と看護教育」を目指し、それを社会で実践できる人材の育成を図っています。



TAKARAZUKA UNIV. 25th

【創立 25 周年記念シンボルマーク】

卒業生 福原 基和 さんの作品

<25 周年記念事業>

・メイン事業「舟 PROJECT」

創立 25 周年記念メイン事業「舟 PROJECT」は、宝塚キャンパスを舞台に学生と教職員が一丸となって「舟」を創ります。全学生と教職員が出品する「千の宝船」プロジェクトも同時進行します。

・創立 25 周年記念シンポジウム『色彩の心理作用』（仮題）

基調講演：木村千尋（本学看護学部非常勤講師）、
パネルディスカッション 大村皓一（宝塚大学教授）ほか
日時：2012 年 8 月 25 日（土） 場所：宝塚大学 大阪梅田キャンパス

・創立 25 周年記念 公開講座・オープンカレッジ

ユニークで魅力ある授業や講座を、広く学外へ発信する公開講座を開催します。

<宝塚大学沿革（一部抜粋）>

- ・昭和 42 年 4 月 前身である関西女子学園短期大学デザイン美術科を大阪府箕面市稲 5 丁目 5 番 1 号に開設
- ・昭和 62 年 4 月 宝塚造形芸術大学造形学部開設（所在地：兵庫県宝塚市花屋敷つつじが丘 7 番 27 号）
- ・平成 19 年 4 月 宝塚造形芸術大学東京メディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科開設
（所在地：東京都新宿区西新宿 7 丁目 11 番 1 号）
- ・平成 22 年 4 月 宝塚大学看護学部看護学科を開設（所在地：大阪府大阪市北区芝田 1 丁目 13 番 16 号）
- ・平成 22 年 4 月 宝塚造形芸術大学を宝塚大学に改称

6.今後の予定

■ 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「オープンキャンパス」

日 時：2012年4月22日（日）、5月27日（日） 13：00～16：30

内 容：大学紹介、入試説明、特別講義、個別相談、キャンパスツアーなど

【4月22日（日）実施の特別講義内容】

- ・マ ン ガ：プロ漫画家の技術を盗もう。『ちはやふる』を中心に
- ・イラストレーション：絵文字を描く
- ・ゲ ー ム：プロ用開発環境で、ゲームデザインを体感
- ・アニメーション：ポーズを描く

2012年度のオープンキャンパス実施予定

Takarazuka University
OPEN CAMPUS
オープンキャンパス2012

ミライガ
ヒロガ!のカラバコ
イラストレーション・マンガ・アニメーション・ゲーム

4/22日 13:00～16:30 予約不要、入退場・服装自由

■特別授業タイトル
マンガ プロ漫画家の技術を盗もう。『ちはやふる』を中心に
イラストレーション 絵文字を描く
ゲーム プロ用開発環境で、ゲームデザインを体感
アニメーション ポーズを描く

開催日	時間
4月22日（日）	13:00～16:30
5月27日（日）	13:00～16:30
6月24日（日）	13:00～16:30
7月22日（日）	10:00～16:30
7月29日（日）	10:00～16:30
8月5日（日）	10:00～16:30
8月19日（日）	10:00～16:30
9月9日（日）	13:00～16:30
10月27日（土）	13:00～16:30
11月10日（土）	13:00～16:30
12月15日（土）	13:00～16:30
2013年2月2日（土）	13:00～16:30

■ 「中国国際アニメーションフェスティバル」にブース出展



期 間：4月28日（土）～5月3日（木）

内 容：今年で8回目を迎える「中国国際アニメーションフェスティバル（CICAf=China International Cartoon&Animation Festival）」（開催地：中国 杭州市）から、国際的CGイベント『ASIAGRAPH』にブース出展の招待があり、『ASIAGRAPH』の開催に協力している本学も招待されました。また、2009年に川村順一学部長がAYACC（Asian youth Animation and Comic Contest）に参加するなど、本学の中国での活動も評価されました。今回は、会場に宝塚大学のブースを出展してアピールするほか、レセプションのプレゼンテーターとして、渡邊哲意准教授が参加します。

6.今後の予定

■ 「フェティシズム展」

期 間：[学内公開] 4月10日（火）～5月10日（木）
9時～20時 ※日曜祝日を除く
[一般公開] 4月14日（土）、21日（土）、28日（土）
10時～16時

会 場：宝塚大学 新宿キャンパス 8F 809号室

内 容：イラストレーションコース2年生を中心とした「フェティシズム」をテーマとしたグループ展。入場無料。



■ 竹内 一郎 教授 作・演出の舞台

オフィスワンダーランドラボ公演「プルシアンブルー」

期 間：5月23日（水）～27日（日）

会 場：サンモールスタジオ（東京都新宿区新宿）

内 容：[竹内一郎 教授のコメント] 青色顔料「プルシアンブルー」が18世紀に発見されたことで、それまで高価だった『青』の値段が一気に下落し、青が一般に普及するようになった。今回の舞台は、バブル経済真っ盛りで、日本人は繁栄を享受していた1989年。今からみれば、『狂乱』と呼んでもよい豊かさだった。この時代を『プルシアンブルーの時代』だったと見立ててみたい。色んなブルーがあるように、豊かさにもさまざまある。あの時代から、東日本大震災以降の日本を眺めれば、私たちの向かうべき道筋がほのかにあぶりだされてくるのではないかと目論んでいる。

